第IV部門 東大阪市高井田地区におけるエリアマネジメント

関西大学工学部 学生会員 ○渡辺 裕二 関西大学工学部 正会員 北詰 恵一

1.研究の背景と目的

近年、成長都市の時代から成熟都市の時代へと変わ ってきている。そこで日本の各地でエリアマネジメン ト手法が行われてきている。エリアマネジメントとは 地域の関係主体で組織をつくり、地域のミクロな特徴 を生かすために、地域の人で話し合い、持続可能性の ある継続的なまちづくりを行っていくものである。こ のエリアマネジメント手法は商業都市では見られるが、 工業都市では見られない。

工業都市である東大阪市でも、特に工業集積が激し い高井田地区は、産業構造の変化や不況の長期化によ り工場が移転・廃業している。そこで工業都市高井田 地区に、エリアマネジメント手法を適用することを目 的とする。

2.既存のエリアマネジメントを行っている組織の調査

表1は事業内容、表2は構成員、表3は連携機関に ついてまとめたものである。表1の見方は縦が各地の エリアマネジメント組織の名前で、横が行っている事 業内容である。表2も縦は同様で、横が参加している 主体である。表3は横が連携機関である。

これらの表より、商業都市のエリアマネジメント組 織は集客力と来街者の回遊性を高める事業を中心に行 い、そして市役所と地元商業者との連携を重視し、構 成員は地元商業者が中心となって組織し、まちの活性 化を目指していることがわかる。

	イベン ト活動	他の組 織との 会合	伝統文 化を生 かした 活動	地元 意識 の向 上	親睦活動	商人育事	商業ペンチャー 支援事 業	空き 店舗 対策 事業	広報 活動	情報 化進事 業
青森県青森市。 (株)PMO	0	0	0			0	0	0		
石川県七尾市。(株)御 祓川	0	0	0	0	0	0			0	
兵庫県神戸市。旧居留 置連絡協議会	0	0	0	0	0				0	0
神奈川県横浜市中区・ 西区。横浜まちづくり倶 楽部	0	0	0	0	0				0	0
静岡県浜松市。都心に ぎわい市民会議。	0	0				0				
福島県福島市。(株)福島まちづくりセンター	0	0		0		0	0	0	0	0
東京都三鷹市。(株)まちづくり三鷹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川県金沢市・(株)金 沢商業活性化センター	0	0	0	0	0		0	0		
長野県飯田市(株)飯 田まちづくりカンパニー	0	0	0			0	0	0		
香川県高松市。高松丸 亀町まちづくり(株)						0	0	0		
大阪市中央区。長堀2 1世紀計画の会	0	0	0	0	0				0	
島根県松江市、(NPO) まつえまちづくり塾	0	0	0	0	0					
表 1.事業内容						T	мо	任意	組織	

TMO 任意組織

:店街振興組合 の民 金融機関 計画ンル 元商業者 派遣 世 般会員 タント \bigcirc 奈川県横浜市 表.2 構成員

	市役所	地元商店街	市民	商工会議所	民間企業	他の まちづ くり機 関	大学	NPO法人	大規模小売店	T M O	市民団体	ポラン ティア 団体	運輸事業者	自治会
青森県青森市	0	0							0	О				
石川県七尾市	0		0	0		0		0		O				
兵庫県神戸市	0	0	0		0	0								
神奈川県横浜市	0	0	0		0	0	0			0				
静岡県浜松市	0	0	0	0	0		0	0	0		0		0	0
福島県福島市	0		0	0						0				
東京都三鷹市	0	0		0	0		0	0				0		
石川県金沢市	0	0		0	0	0			0					
長野県飯田市	0		0	0										
香川県高松市	0	0												
大阪市中央区	0				0									
島根県松江市	0	0	0			0	0	0			0	0	0	0

表 3.連携組織

3.東大阪市高井田地区の調査

クリエイション・ネオ研究会を通じての、地元工場主 と住民との議論からと、高井田地区の資料から明らか になった高井田地区の強みと課題を高井田地区のまち づくりコンセプトに適用したものが図.1である。エリ アマネジメントの事例から愛着と地域資源を生かす発 想と、意見調整の場の必要性を加えている点が、この コンセプトの特徴である。

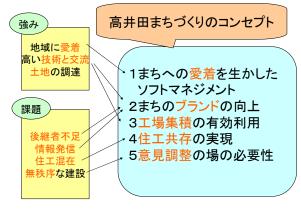


図.1 高井田まちづくりコンセプト

Yuji WATANABE 、 Keiichi KITAZUME

(NPO)

4.結論

4.1 エリアマネジメントの重要性

東大阪市の顔ともいえる工場集積の特徴が、極めて激しく見られる高井田地区を注目することは、拠点を開発するまちづくりの意味でも十分に意味がある。大規模な余地があるわけでもなく、住居と工場が混在した、既成市街地であるから、維持管理運営を据えた、まちをストックと考えたまちづくりが必要である。今まで行政の産業振興政策の目だった成果が見られなかった。そこで、より地区の特徴に沿ったまちづくりを行うためにもエリアの関係主体で組織をつくり、市との大きなパイプとなる組織を創る必要性があると考える。

4.2 再開発基本方向と具体的策

再開発基本方向と具体的方策

- 1.地区をストックとしてとらえる
- 一本の街路、一つの街路単位の土地利用計画による都市 空間の改善。
- 2.住工共存の実現と地区のまとまりとブランド形成 コミュニティ道路実現による安全性の向上 空き工場の有効利用(ものづくり体験イベント、親睦活動、 交流促進)

地区産業発展のための外部情報発信、地区内情報共有 (広報活動、まちの情報をデータベース化)

3.継続性の確保

高井田まちづくり協議会の設立と市の協議会と他の様々な 組織と連携

図.2

図.2 が再開発基本方向と具体的策である。特徴としては住工混在による住環境の悪化の課題を解決する方向性と、意見調整の場として協議会を設立することである。

4.3 エリアマネジメントの枠組み

図3が高井田地区におけるエリアマネジメントの枠組みの試案である。

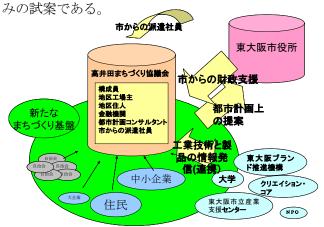


図.3 高井田地区におけるエリアマネジメントの枠組みの試案

結論の説明として商業都市におけるエリアマネジメン

トと高井田地区におけるエリアマネジメントの違いに ついての私の考えを述べる。表 4 が簡潔にまとめたも のである。

高井田地区のエリアマネジメントの特徴として、住工 共存が一番求められている。そこでどのような方策が 効果的であるかを考えたところ、公共空間の整備を重 視する方策が有効であると考えた。商業都市は集客に よる地元商業の活性化を重視している。工業都市はま ちのブランド力向上により、製品のブランド力の向上、 そして住工共存の実現を重視する。公共空間改善を重 視する意味でも、都市計画上の提案を行う等、市役所 との結びつきは商業都市よりも強くなる。そして、ま ちの活性化が利益につながりにくいという面でも、エ リアマネジメント組織への財政支援の必要性が高いと 考える。

違い	商業都市	工業都市
目的	商業活性化、集客 力、回遊性の向上	ブランドカ向上に よる製品が売れる 住工共存の実現
地元の取り組み 力	利益につながりやす い。やや高い	利益につながりに くいので。やや低い
行政との関係	相互の情報共有、協 議、	財源の支援を受け る、都市計画上の 提案
事業内容	ソフトマネジメント中 心	公共空間マネジメ ント中心
構成員	地元商業者中心	地元工場主中心
他の機関との連 携内容	情報共有、事業提携	工業技術と製品の 情報発信

表.4 商業都市と高井田地区のエリアマネジメントの違い

5.おわりに

本研究では資金の徴収方法など、組織形態等は具体的な試案を出せていないため、資金の問題をさらに調査する必要がある。それと今回は高井田地区におけるエリアマメジメントのあり方を提案したが、今後工業都市におけるエリアマネジメントの仕組みとして一助するためにも、他の工業都市、東京都大田区等の工業集積地のエリアマネジメントのあり方を考え、照らし合わせることができれば、工業都市におけるエリアマネジメントの仕組みがより実証性のあるものとなると考える。

参考文献

学芸出版社・エリアマネジメント 小林重敬編著、 2005